

## ご挨拶

徳島大学整形外科同門会 会長 邊見達彦

季節外れの暖かい晩秋から一気に厳冬の様相を呈しておりますが、同門会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成30年も多くのことがありましたが同門会員の皆様にはどのような一年でしたでしょうか。西良浩一教授は就任5年を超え、私も同門会長就任5年を迎えております。

さてこの1年をスポーツの世界で振り返りますと、私の個人的な興味と記憶では1月青学大の箱根駅伝4連覇で始まり、2月開幕の平昌五輪でのスピードスケートでの小平選手、高木姉妹、ジャンプでの高梨選手などの活躍がありました。さらに、「そだねー」「モグモグタイム」で癒されたカーリング女子の活躍や、やはり最後は羽生選手のフィギュアスケートでの連覇の感動も思い出されます。5月、サッカーではインiesta選手のJ1 ヴィッセル神戸加入に驚きました。7月のワールドカップでは日本は16強に進出し、優勝はフランスでした。8月、甲子園高校野球での大阪桐蔭高校の二度目の春夏連覇、9月には大坂選手の全米テニスでの日本人初優勝も大きな感動でした。大谷翔平選手はMLBでペーブルース以来の投打二刀流の新人王となりました。16歳紀平梨花選手のフィギュアスケート初出場での初優勝、15歳張本選手の卓球世界王者も若い力を知る大きな話題でした。

そのほかでは政界の複雑なニュース、西日本豪雨被害や北海道地震の悲しい知らせがありました。そんな中で、京都大学本庶佑教授のノーベル医学生理学賞受賞は大きな喜びでした。第4次内閣組閣で長期政権となった安倍内閣には経済のみでなく科学、医学の分野にも大きな貢献を期待したいものです。

さて、私たち徳島大学整形外科の関係で見ますと、徳島大学整形外科教室主幹の「日本整形外科学会スポーツ医学学術集会」の開催がありました。医局、同門会が全力を挙げての開催で、西良浩一教授以下の医局の力が大きいとはいえ、盛会に終わり、同門の皆様のご協力には感謝申し上げます。さらに、平成31年にはこれも徳島大学が主幹で低侵襲脊椎外科学会が高松市で開催される予

定です。この学会も盛会となりますように皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

次には、関連病院の問題です。新入局医局員減少による関連病院の人材確保困難の問題があります。これは徳島大学の多くの診療科全体の問題のようでもあります。整形外科もこれまでは他の診療科に比べ比較的多くの入局者を確保できておりましたが、来年度の入局者の減少と定年や自己都合による関連病院からの離職者の増加があるようです。これに関しては私たち同門会も幹事会や関連病院医長など同門の皆様のご知恵をお借りする方向で考えています。しかし、専攻医の専門医研修、専門医維持の問題もありますので、同門の皆様と相談の上、最後はやはり大学医局と専門医研修施設としての関連病院全体のことに最終責任のある西良浩一教授以下の医局幹部の判断にゆだねるのが妥当かと考えております。

これまで入会の同門会員数は400名を越えますが同門会の歴史が66年となりますので、残念ながら物故会員も40名あまりを数えます。これも昭和27年創設の同門会歴史を考えると致し方のないものと言わざるをえません。

同門会費につきまして、これは同門会運営のために大切なものです。大学を遠く離れても同門会誌が送られてくるときっと懐かしく会誌を読まれると思います。会誌、住所録の作成や送付、通信の費用もあります。お忘れの先生方はよろしく願い申し上げます。

昭和が過ぎ平成を迎え、いよいよ平成も31年が最後の年になります。次に迎える新しい元号は何かと考えながら皆様も新年を迎えていることと想像します。

平成31年、そして新しい元号の初年が徳島大学整形外科医局、同門会のさらなる充実、発展の年になることを願い、さらに、同門の皆様方の今後の益々のご健勝とご多幸を願っております。これからも同門会へのご理解とご支援をよろしく願い申し上げます。